

三
綱
行
實
圖

忠臣之部上中

卷

特 別

□ 9

817

3

7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6

特
817
卷 3

三 經行實面

忠臣上



龍逢諫死
石碯純臣
紀信誑楚
朱雲折檻
李業授命
卞門忠壽

藥成鬪死
王蠋絕脰
蘇武杖節
龔勝推印
嵇紹衛帝
桓彝致死



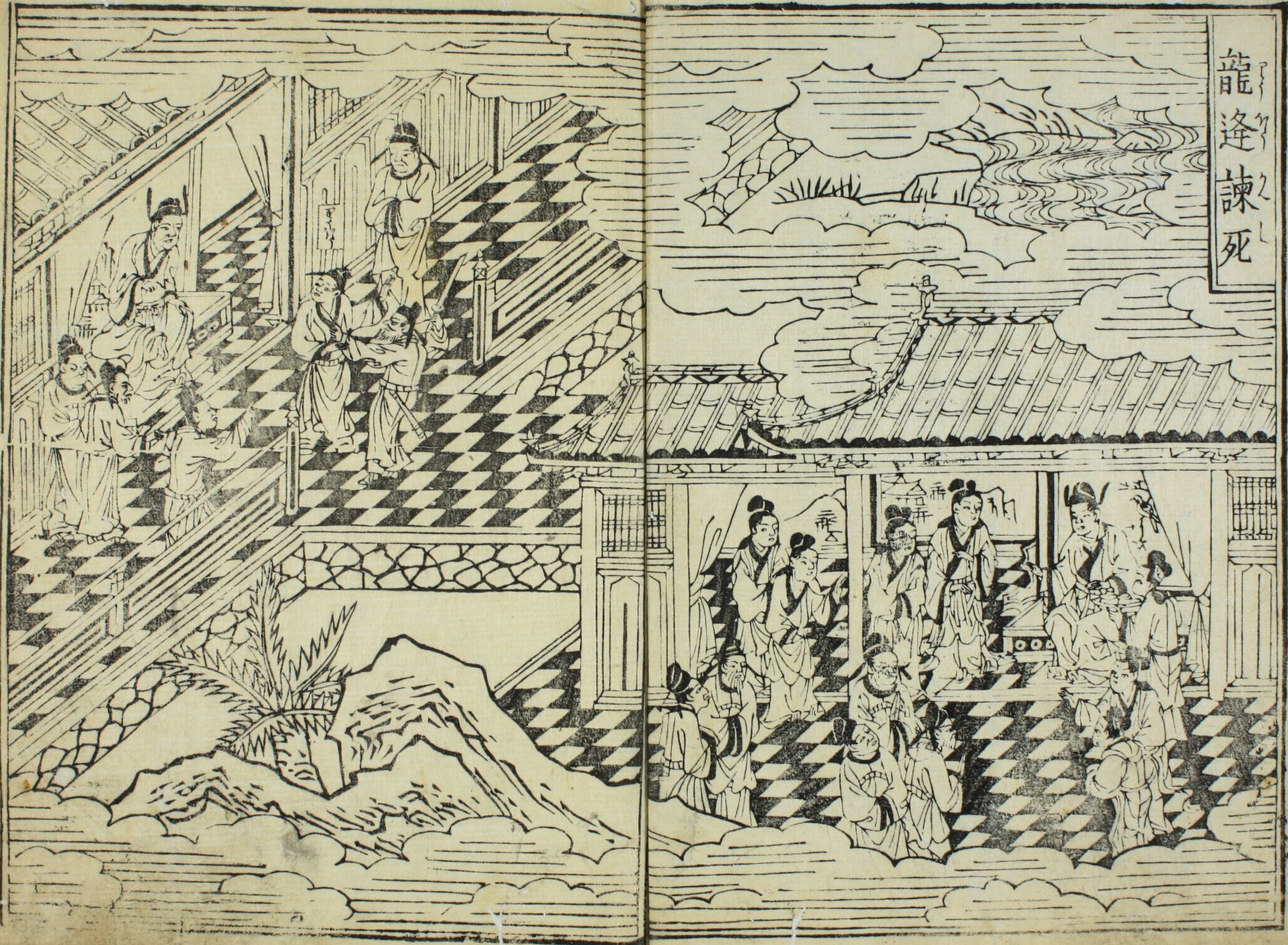
三經行實品

龍逢諫死

夏ノ桀王多きりあふ故に此人ありその性
 ちみづかづりて民乃う是人とて去らずなり
 じをこきりて悦とほむこす事と作さす
 妹と云ふやゆりしと来まの屋とて来
 多すりわきふとら此うてあ後けりこれ
 中ちう小男せうなんやや此なるそとく海うみどりり所ところ長来
 此宴えんとてち十日ととら一日一来とて先
 けりもりし初め新あたらとてうい舞まひとゆり

龍逢諫死

忠臣



藥成闘死

晋の藥考子ハ字々成とらふ翼と云同のあ
 へど哀侯と云人此侯下とて忠弟とけく
 しきありそれより曲沃と云とよりたあるが
 事云とらふ人作くき城たうて翼と云
 ともより哀侯と云とらふ人ともけり
 日くともたうちまけくともされたり
 事云とらふより藥成ハ忠弟と云とらふ
 事ともたうちまけりともあり事と云りて
 成りともたうち作る也ともありとも

事つら事つらありれ我ハ忠弟と云とらふ
 事とらふれ沙と云とらふ事とらふ
 わとらふ困りともありとも成りともた
 藥成と云とらふ人作くき城たうて翼と云
 事とらふれ民ハ忠弟と云とらふ人
 こまにたうちあへど忠弟と云とらふ
 事とらふれ民ハ忠弟と云とらふ人
 忠ハ我と云とらふ人作くき城たうて翼と云
 事とらふれ民ハ忠弟と云とらふ人
 忠ハ我と云とらふ人作くき城たうて翼と云

虎臣上

六

石厚セキコウをふりち別呼キョウと考ふがひて陳子ゆ
 石碻セキカクをふりて陳子けりては石碻セキカクを
 かりまの厚コウのハ今もがすむと云ふ衛エイの
 けりてちのきくまれ又さうさそを
 こみちほしきうり別呼キョウ石厚セキコウこの二人を
 こしゆきく移ウツリと云ふと云ふは
 ありくくはとくまけりとのありと云ふは
 あり陳人チンジンすふりちこし成さくあり衛人エイジン
 すふりち右宰ウサイ醜ウツシと云ふのふおかせく別呼キョウ
 と云ふ僕ボクと云ふと云ふは石碻セキカクと云ふは
 標羊肩ヒョウヤウケンと云ふのつる石厚セキコウと云ふは陳子チンシ
 しめりけり乃実子ミコまの石碻セキカクの後ノチに純ジュンと云ふ
 別呼キョウと云ふと云ふは陳子チンシと云ふは
 うみまうと云ふと云ふは陳子チンシと云ふは
 こし成さくは陳子チンシと云ふは陳子チンシと云ふは
 けりては陳子チンシと云ふは陳子チンシと云ふは

詩曰家兒黨賊致紛紜來問和民與定
 君國小無能身亦老勸金玉觀是奇勳
 又曰陳人討賊是誰因老子謀謨動四
 隣大義滅親如欲識請看青史記純一曰

石碓純臣



石碓純臣



こゝに回をがまきりうひより我作ふあゝ人
とやま由かゝるうとふとわとあひやう
おけりよのともらとせんともあまのふ
おろしてははれさつら作さんさうりえ
あうど死せんあうといふけしああの花よ
繩とさうしてさうう腫とさうさうかり死
す

詩曰 盡人盡とわこみと城と度人
勢す。勢士とづらんそまのま成まけ
おれいふおれいふおれいふおれいふ
おれいふおれいふおれいふおれいふ

より千載梅田の

ス曰まりうび回解さうく存すうと
わさうす。義とあうとてあうと作さう
ゆふ湯とらにきうんや。死と梅田の
まうゆとまうとらう。おれいふおれいふ
と作す

王燭絶腦



紀信誑楚

溪の言祖楚陽とくよとこちか城とわんくま
 てこころり終る項羽けりものともくすき
 尤童もろり海さてせめま家ほご中溪ま
 川とたひてわんぐせんよ成語きま
 項羽の長下花増らふものや羽とすめい
 なくきまひ百らびとけくすも岸云け
 中下とくまふや一あこくびよりさ
 わるくさずらふくほりものときめく
 小せあさりまねを城すまおらんす祖

乃長下小記信えりとらふきの侍軍しきぐん北宮きたみやあえ
 侍しきさのけりるさしとや成つてすささどよはけりもの
 つくまゝさうりまさればふまきんまきまほしあてあう
 祝いわのよらも新あらたてやして侍しきく今いままごよことま
 かりをらまことふゆさずまきまはるあふるさうす福ふくが
 くまされ項羽きやうよくのほりもれとまきさうりまきし大おほま
 こ乃このまきざわらひさうふ城しろとわらふなごうとまき
 日ひれらるさしとまゆらあさりまきま日ひすまごよまきけ
 北きたは隆平りゆうへいとさうり長下えりまらまこと成なりまらさし
 原はら下したのわらうと二千ふたご経へい人にんとさうり八はちつて城しろの兼かね
 一ひとりせえあつよりまき記信きしんすあうらさう経へいの清きよ
 成なり活いきりりてま乃この車くるまにさうられり城しろのわら
 北きた門かどよりわらうとまきさうりまらさうりまき侍しきく
 中ちゆうは食たべさうりまきけりまのまごよまきけりまき候さう
 まうと侍しきの城しろとわらうとまきまらさうりまきまらさうり
 幸さいとひささうりまきまらさうりまらさうりまらさうり
 万まん歳ざいとさあふまきまらさうりまらさうりまらさうり
 のらうり幸さいとえさうりまらさうりまらさうりまらさうり
 考かうけは城しろ乃この雲うみの門かどよりまらさうりまらさうりまらさうり

忠臣一

十三

成事といふとあらばおちたはび多しなり
 来すや明日もねむむ相こまに對面せん
 とく率よりいづてまねむむさうてハあり
 高の將軍紀信とまよのありき相ちよりの
 て紀信とハ厚さうりきりむ相ハうさ命と
 のがまきまのくけらまの成あつたはく成
 おろして大に成まふ人多くこまにさ
 紀信が命とまねむむて楚とあきむ
 也第一より侯朝の齊祚と成にあり

はる日美五そてくを國と成りける。事

ておんウ折魔とそん。將軍れちるこ
 楚ときづううすふあうすハ。陳平知計
 とらふも敵もとありん
 又修く就とらら風子附修くづく英雄
 美屋生あがう降アもく降云とある。事業
 神いさうとこの舉にりづく。葉何
 七こ世後の元功も何す



紀信誑楚

忠臣上

十一

くるりて死し飛ひももねねるるなりなり人ひと事ことももああるるべべつ
 ららずず忠ちゆう臣しんははああららずず死しすすてて天てんににああららせせるるべべつ
 了りんんととああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつ
 せせるるべべつつももああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつ
 人ひとととああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつ
 事ことももああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつ
 作しやうととああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつ
 りりららずずのの事ことももああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつ

法しのの口く災さい異いををああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつ

人ひとととああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつ

延のびびるるべべつつももああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつ

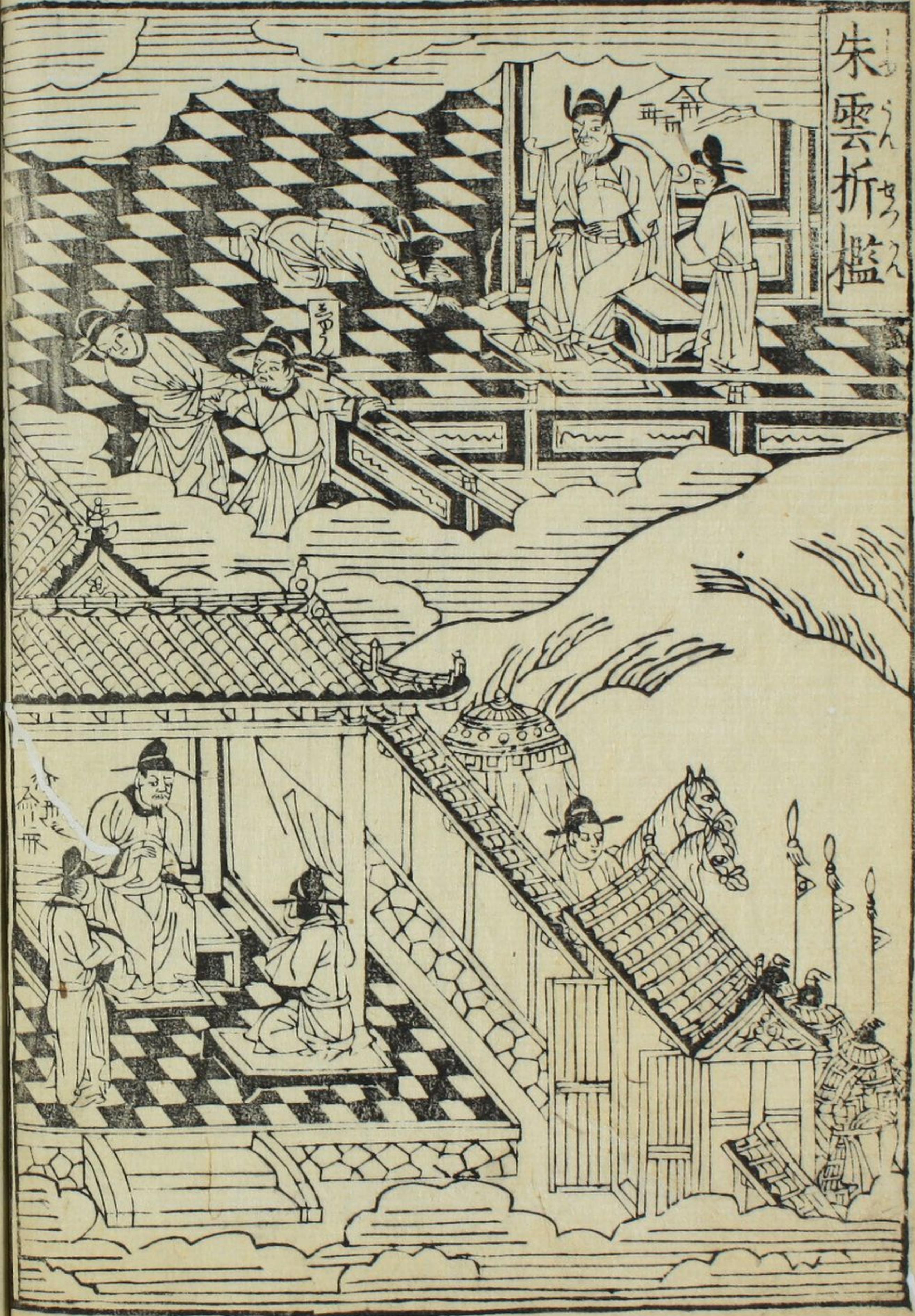
又また曰いははすすべべつつももああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつ

ととああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつ

異いははすすべべつつももああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつ

忠ちゆう臣しんのの事ことももああららせせるるべべつつももああららせせるるべべつ

朱雲折檻



龔勝推印

侯乃光禄大夫龔勝ハ後漢の五帝ガ下
 とつとあうりよくまうりいんばとらふる
 作とぬとさうさあうりまうりまうり
 どもまうりまうりまうりまうりまうり
 けうりて都まじとんと金書
 さまれ師長祭肉の友れ下後まの
 とまうり作り候と都の奉行と
 里まうりまうりてまうり門外
 初まうりまうりまうりまうりまうり

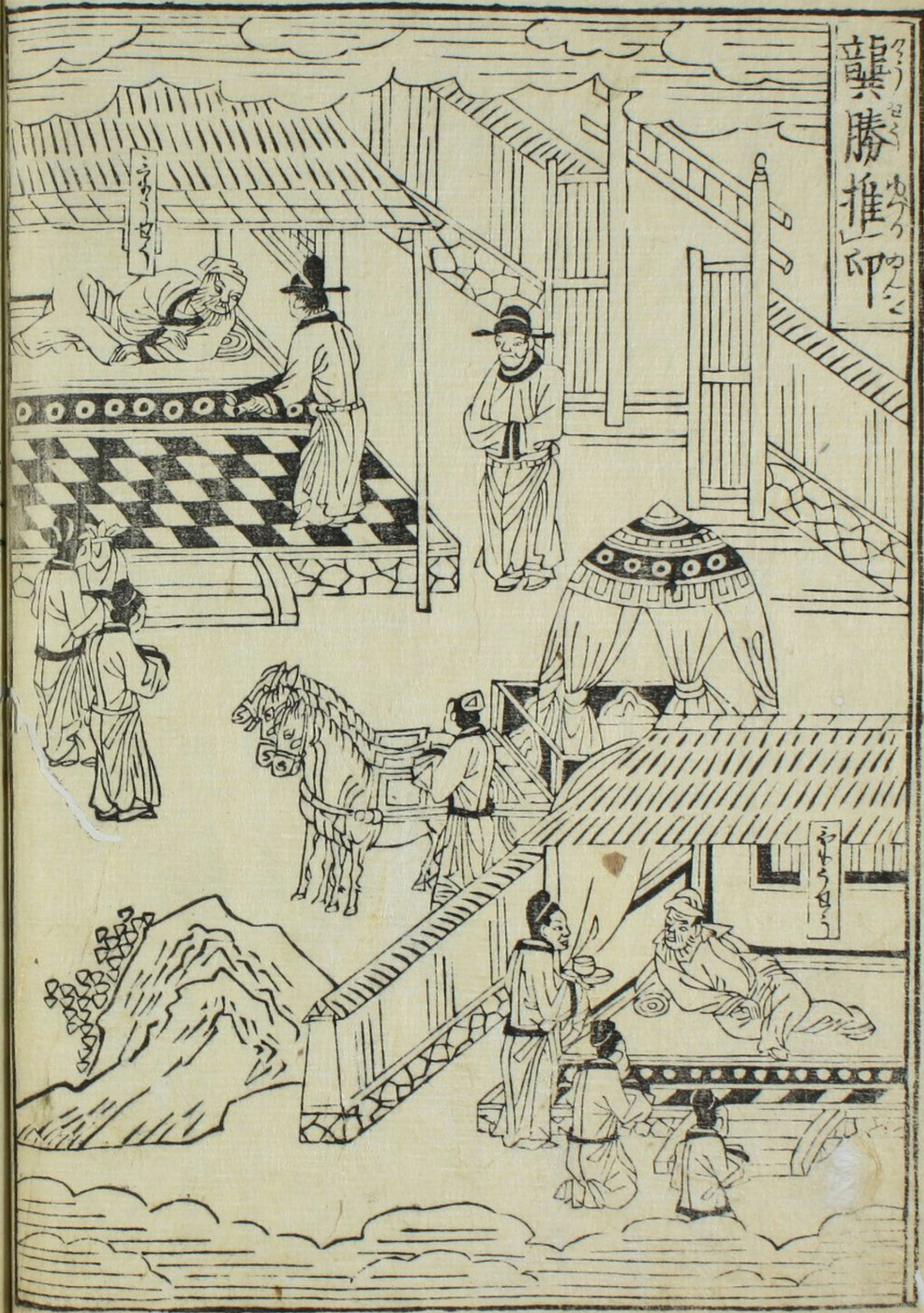
海らふ舟ららるる舟ららるる舟のまはははらるる
半ハ忠長乃するともうはめりすも一舟
二舟もつるくと命なりんともふ舟なりて
舟のらんほくわりてつ地らりもつる舟ららるる
くはまの海をえんやまらるる妻礼の事と
舟ららるる舟ららるる舟の口より舟食してなる日
とるる舟ららるる舟ららるる舟

舟の口 新を舟は舟りて圓極うらるるをて
こまはゆらこまの直は舟は舟なりん
舟は舟なりん

駟馬は舟ららるる舟ららるる舟

みつくと舟は舟後とくつて礼と舟は舟なりん
舟は舟なりん舟のうまこまは舟なりん
舟は舟なりん舟のうまこまは舟なりん
清谷と舟は舟なりん

龔勝推印



李業授命

後ノ李業之梓潼と云る人あり元始
 年中少年也少壯く帝とある五帝なり
 然るに仁と云ふと云ふ事ありて厚い
 わりともよく言と云ふ事ありて厚い
 五帝と云ふ事ありて厚い
 あり事と云ふ事ありて厚い
 色かしく輝きと云ふ事ありて厚い
 融と云ふ事ありて厚い

作らばさうりくハき一命ヲねらじしてまゝに
 云々の位をきかぬし多しきくすの毒酒
 とりくしうきしと甲融くも中絶しては
 ひの成りゆくもひてみくしうて作らくハ天
 下をさきまされて作らくも絶てはくしう人
 やまらるる我意地の徳とまらひてあまき
 考くもしてまらくも成すも人として終る
 ハ方くもあらひのくハ子孫のあまらひ
 みまらくしう人ヤもまらぬのまらぬ
 かの國のハありくしうもハ入るるしうも
 了すものハ義としてまらくも終るしう
 まのハまらわやうもまらぬも命と授
 くるものありくも人ヤもまらぬもあま
 けり作らくもまらぬ位と奉禄と成らくも
 やららくもあらくもまらぬも命と成らぬ
 甲融くもまらぬもまらぬも命と成らぬ
 てつてまらぬもまらぬも命と成らぬ
 百一もまらぬもまらぬも命と成らぬ
 作らぬもまらぬもまらぬも命と成らぬ

きこぶふらやわらゐの情すくねるこころの
 ものうきれとも笑人わらふらゐの情すくねる
 こころの情すくねるこころの情すくねる
 後ち下はわらふらゐの情すくねるこころの
 きこぶふらやわらゐの情すくねるこころの
 ハミゴころすくねるこころの情すくねる
 情の情すくねるこころの情すくねる
 候きの陰影すくねるこころの情すくねる
 けちちと体と茶と世と終と孫わらゐの情
 餅もすくねるこころの情すくねる
 又四云りのふ崩れつる是也。平融音と
 くるてきこぶふらやわらゐの情すくねる
 こころの情すくねるこころの情すくねる
 こんぞとく指押と接まん

李業授命



嵯峨衛帝

太弟頼朝とらひえいちかまはむらざりときりあや成りしめ
あてて人れねりいよまじりしゆり司し空くう奉ほう命めい
野のこまゆかくみくたうこと後ごりうくうん
とすきさりら恵えい事じ一い北きた征せいとまきくめんはるる
その侍ざむらい中ちゆう嵯さ紹せうと云いそのハまきりあや奉ほう命めい
お弟ていれつりよのありまうこまゆあてて
くらの初はつらまきりしゆりあや成りしめ
中ちゆう奉ほう命めいと云い北きた征せいとまきりあや奉ほう命めい
あはしきりあや成りしめ嵯さ紹せうと云いそのハまきりあや奉ほう命めい

和門忠孝



詩の口破庵横江とて成るべく
 今少りて大邦に成るべく
 今少りて癰疽瘡疥も今も成るべく
 今少りて若死して叔父も成るべく
 今少りて忠孝も成るべく
 今少りて金も成るべく
 今少りて名も成るべく
 今少りて家も成るべく
 今少りて人も成るべく
 今少りて世も成るべく
 今少りて国も成るべく
 今少りて天下も成るべく
 今少りて成るべく



桓楚致死

三經行實

忠臣中

顏袁罵賊

張吳鋸死

演芬快死

劉幹捐生

邦人書襟

尹穀赴池

張許死守

秀實奪笏

若水效死

侯察植立

岳飛涅背

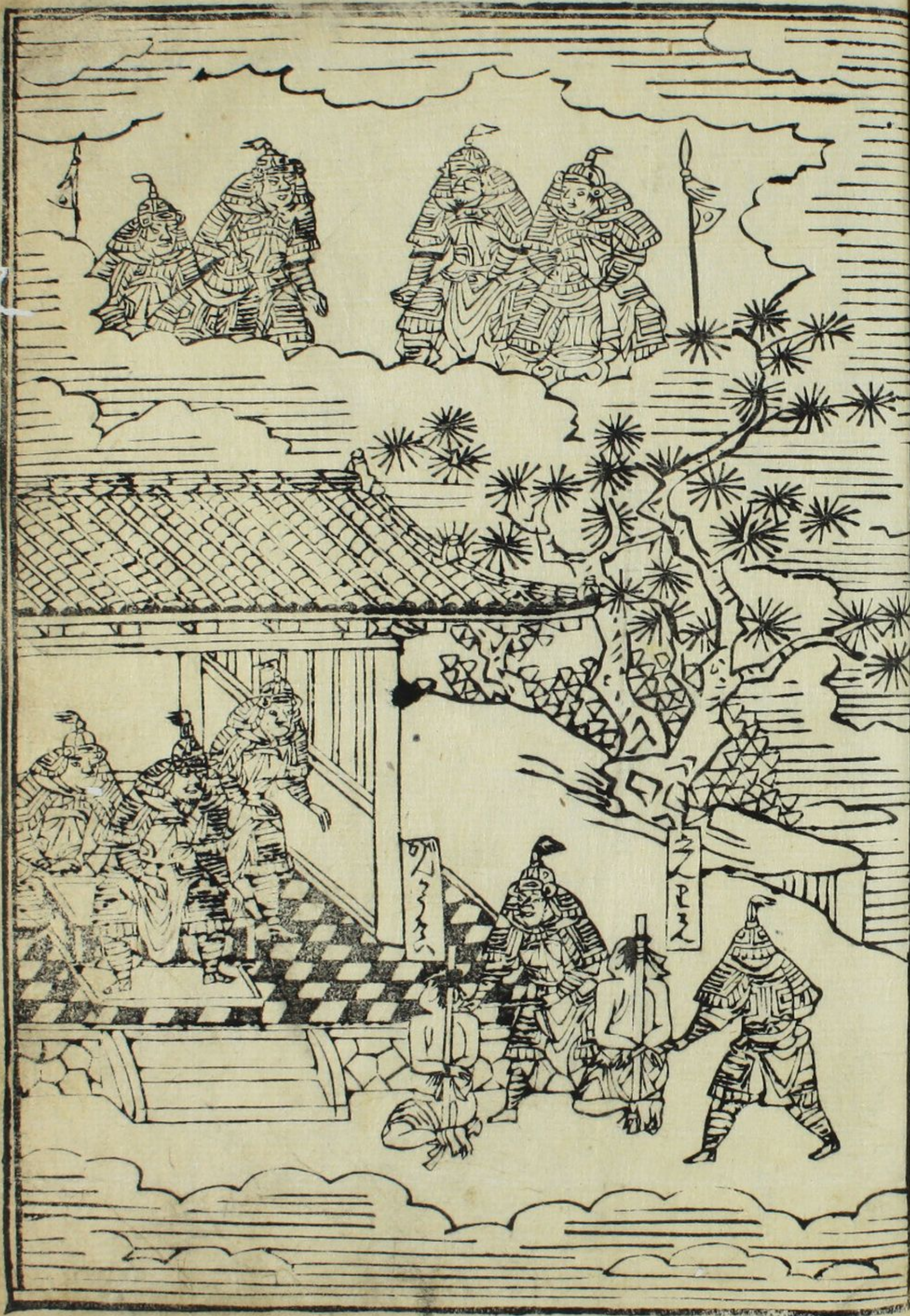
天祥不屈

三經行實圖

顏袁罵賊

唐乃安祿山カク安祿山カクとれりけりカクのをす
 ぬくカク葉城カクゆつるカク事カク乃太守カク顏泉卿カク
 侯人カクこま成カクさぐカク安祿山カクが来カクるを
 履カク議カクと云人カクともろカク安祿山カクが来カクるを
 ずらカクく清カクむカクいカクのカクをカクてカクおカクりカクた
 祿山カクと云カク乃カク顏泉卿カク子カク金紫カクのカク衣カクを
 わカクるカク人カクキカクりカク顏泉卿カクがカクゆカクるカク乃カクてカクげカク衣カク成
 せカクるカク候カクるカクこれカク乃カク表カクとカク要カクすカクべカクくカクやカクと

袁履徳をうてまのつとほりてすありちを
 と今やと安祿山をうてまのつとほりてすありちを
 と成をうてまのつとほりてすありちを
 てとておもひんとすまのつとほりてすありちを
 此を城のそあへも作まざるはえさるはこれ
 申すまのつとほりてすありちを
 史思明業希法と云二人乃の此事とす
 つまむ教下のけりものよ引てやまをうて
 是の袁履徳ちうて成はくしく日東とす
 此のけりものよ引てやまをうて
 新景の袁履徳ハまのつとほりてすありちを
 新のぬめりものよ引てやまをうて
 此より安祿山ちよつとほりてすありちを
 此れかんらうとみまのつとほりてすありちを
 此守とす判なとありまのつとほりてすありちを
 此大悪とすまのつとほりてすありちを
 此りまけつとやと新景とすまのつとほりてすありちを
 此りこれ景列の下民とすまのつとほりてすありちを
 此のありとみまのつとほりてすありちを



顔
袁
罵
賊

張許死守

安祿山すくはまんとおもてゆくさ
方々守祿山の侍軍尹子奇の
陽の城とさかこむ詩遠まのこ
まぐはらうしほ張巡とふま
まありまれを許遠グリと
て急戦はげぬ張巡とふま
けりものよし許とりて寧陵と

く城とぬるて日暮しあまき
遠くは張巡とわたりて作
母城とまもりて沙きみ
とまらふ尹子奇と教百
て城とさむるまもり也
けりものよし許とりて
今もろく食し茶飯
くはまれどもはらふ
けりものよし許とりて



張許死守

三ノ人

三ノ人

三ノ人

三ノ人

張興鋸死

安祿山がこゝに上りて天下すべしと云ふれど
 福山が侍軍怒り討つのはりの
 と引て饒陽の城に居てみまわつてつじ
 てせしむる年茂出ゆりて居たり
 音の城墾にふやめられきまはる法
 此はつと此ひつとありて城とせ免るなり
 後法の勢はしき格とすく候ふなり
 之れをけし城は居り城の大侍
 張興鋸は新法に侍りて運うんすべし
 明あきくつて侍るく海はふふあつて入るはり
 此ありきつとくも天運つてあるは侍
 りがふふ侍もぐり侍り候ふなり侍
 ことせり候はるものほしおあつてか
 去るみり候はる候はる候はる候はる
 て言ふ中候はる候はる候はる候はる
 せんといふ張興大侍りてあつて侍る我
 候はる唐乃みり候はる候はる候はる
 去るきたあし余は去る候はる候はる

張興鋸

十

りはハこせね賊なりとれえんら成よりて
 きき一れふりて所もさるるにれあんぢも
 きふさくゆのゆもさるるにれあんよさ
 きもまじし人やすきさるるにれあんよさ
 眉間とまてわらまらまらぬと血あがれ
 地ふさく幸也はわらまらまらぬと血あがれ
 てりぐさくや朱庇がけりものともあつる
 秀実とバムにきり

詩の口呪符りりるを修して向ゆの縁を
 千難とあやさゆりる功細あす。芳なる千
 載りつぎさるるに人

又曰堂必崇茲海とも徒あり。勃然し
 して勢と袖とすさるら裾とすさるら
 形骸とさるるにれあんよさるるにれあんよさ
 ありきさるるにれあんよさるるにれあんよさ

秀實奪笏



演芬性死

唐乃石演芬ハあつていささけりとのあり李懐
 光子けく都將ホつりたまひてまゝ
 海より渡りて子れ契約とてまゝ懐光
 をて来未泚うらわれて之橋とてまゝ
 小孫くうら子演芬こま成乃くたま
 年一と部成義とまのなけり
 みりてまゝつらうまゝやうのま懐光
 小孫のまゝ小孫とてまゝ
 神かりくま懐光が官職とてまゝ懐光

ありと却成義みし人いふく守まは懐光が
 子乃李権く懐光く演芬くり忠といふ
 とも懐光こま成すてすありら演芬とよ
 ひく罵辱きくめくつて海いこまらるる子と
 あり我いゆがよと成てまのまのをいりりし
 ちくろふ今きくらし作中我くもせしす
 てふら家とほろがさんとすし成のぶ
 奈のきとせくつて次をくしうせんし
 演芬こく人くつてくかたけくもみり
 演芬はありと腹心のくはかたけくは成
 海といふ懐光すてくみりしはまきまあり
 股肱すてく力らあまわれり腹のあんぞま
 やすらんまらふれんぞらよまきりまん
 成されいこは相國乃のありせられて
 このころ只一人はけりる事とまりと謀叛
 乃達はもきまふと成いさく死す成ま
 ちが命あり我くまらるる賊らくはと成
 事ありれは海いしのみを死すすれ
 あり人たりこまらるる賊しとみくはあり

田中

言れど懐えらるりて演券が鬻とまきて
はりののこもふらりて軍兵とてみお作
演券ハ忠義地良ありなりてふりて
くハ心もいふ敵なきも刀とつらまの
そとまりて死朝とつらやうり海
徳宗皇帝ころ事とまきとつらとびて
ころ人ハこと世由との忠臣ありとの
ちりら演券ハ兵部尚書のあはれと
このあはれ後之百まるとつらとて部成義と

清少白侍軍統兵機とほめらるる
賊と連和して國事ハあり。むより相人
の異志ありなり。行在ハけらるる人とも
あはれつらみとあはれもふ
ふらと云まにきけらとれハらま
ひん推するらとつらとみとけ
すけ井ハ断頭ハあはれとつらと
金とす。ふ載あはれとつらと烈なる
風

演芬快死



忠臣中

十八

若木效死

宋の靖康二祚人々金の軍兵もや成階
 降すふとつとみよの袞竜の湯衣
 帝李若水一人けさきひとてふりて
 こまかたでも折西も中けりかこつをば
 尺とてせりてこまはらく如神あるに
 多金人ハハハ情さくはこまをけり
 死やりのるは物ありとて時は

忠臣中

十八

はらへりしをばあんなじとてよひくは
あぐりまありみりしをこり事とてあぐり
多ひて金此陣中と打ちしとあぐり
あぐり會をきさらまひあぐりあぐり
つせうかんよりおつる陣はあぐりあぐり
よぐめせあぐりくぞとてあぐりあぐり

はらへりしをばあんなじとてよひくは
あぐりまありみりしをこり事とてあぐり
多ひて金此陣中と打ちしとあぐり
あぐり會をきさらまひあぐりあぐり
つせうかんよりおつる陣はあぐりあぐり
よぐめせあぐりくぞとてあぐりあぐり

あぐりまありみりしをこり事とてあぐり
多ひて金此陣中と打ちしとあぐり
あぐり會をきさらまひあぐりあぐり
つせうかんよりおつる陣はあぐりあぐり
よぐめせあぐりくぞとてあぐりあぐり

若水效死



劉韜拍生

金北軍兵もて宋領とせらるる河東の割
地使劉韜作まじく金の中はこめく因人と
金人すまらちのゆはこめく因人と
たよりとて金國乃僕射韓正とよしの劉韜
母おろしてつらく云つてあはれありて
まじくおめしとせられり云乃まじくとて
うらみありてまじくとせられり云乃まじく
らむ作れ我金のまじくとせられり云乃ま
まじくとせられり云乃まじくとせられり云

劉韜捐生



傳察植立

宗正少卿傳察とて人ハ宗正靖康ニ移入寸
 て其接待使たりこゝろも金人ソク成りよ
 りて京師と称らるんも後からそり
 内廷といふこと都のハこゝろ中一内とある
 人ハ傳察みりの命をさうりて遷る
 とらふさうふおぼしきさうりある人及て
 傳察のまかりてくつていふまゝに
 金人まごもむかんをばりけりその後
 してりて及こゝろ内廷をまかりて遷る

傳察植立



邦又書繼

宗の建矣之移人云下つましくみでつてつて
 ちつらり小杜充とつて人小宗の忠臣として建康
 とつてつて小杜充とつて人小宗の忠臣として建康
 金乃軍兵部系譜の勢をとりて登載と
 りつてつて小杜充とつて人小宗の忠臣として建康
 城すつて小杜充とつて人小宗の忠臣として建康
 とつてつて小杜充とつて人小宗の忠臣として建康
 やむつて小杜充とつて人小宗の忠臣として建康
 えつてつて小杜充とつて人小宗の忠臣として建康

ほうごのゆめくうきぐみ幸しと將軍元木を
つらきくうも成引ひらきまぬとらう
あうそくさるるの地はぬらうりらり
てふみくえれどわらんすゆききとりり也
こらうくうらうはしとくけしりり列わし
おろ成をのくそくう一書れ

詩中つくく金兵ちりうそ建康あやじ。
杜いのがれて降ハねら作さあひえへす狩り
操ふれとありてけしふ屋や守籠ぬとあ

不常の生男兒

ふ口空の刺禱中書してさきあつらふ
あり。むらる趙鬼ともくさも地ハ降し。
わえさう母れ一死を節とまうとす
と成籍くきふ依る春

五

五



忠三郎

三十四



邦人書襟

忠三郎

三十三

岳飛渥背

宗弼千々子金人 びりり甘えられ毎日乃
今我らもやし事ほすうりらるるぞ宋の兵
ららとけしそあやまらぬあひまもあがり
金乃軍兵やあわぐそそとくまやうありきり
あゆ金人ちりりしはらうそ和睦せんし
宋朝のお軍も秦檜とらふものこれあつらひ
はらとけしそあやまらぬあひまもあがり
まより子樞密副使岳飛と云人やて侍るべ
... (rest of the page text) ...

三十一

忠臣

らひし人として書つるけきも淮西の城
 とありて其のりきり人にとりてみよの會
 所とありてちとて也幸一とありのきれだ
 張後こし成るる事子諱してつる
 岳飛の會と作るやして淮西の城乃
 意する所もつる事す及ふ事つる事
 て金人よや成るる事つる事つる事
 へしと秦捨とてありてつる事つる事
 くとありて諫議大夫高とつる事つる事
 岳飛が軍大將とつる事つる事つる事
 まりやうの張憲とつる事つる事つる事
 て淮西の通路とつる事つる事つる事
 がつる事つる事つる事つる事つる事
 あり襄陽の城とつる事つる事つる事
 岳飛とつる事つる事つる事つる事
 金人よやつる事つる事つる事つる事
 ありてつる事つる事つる事つる事
 の事岳飛とつる事つる事つる事つる事

名もよ岳がひをすゞもすまのしとくちりとももの
 とくびとく下れものぬ素槍きんぎょとやうに旗
 りしはきりぞれたる金人きんじんはくちして國中うちを
 款くわんとあり帝ありより宋そう知のち下ハけり
 金田きんでんはうがてきりて

流りゅうもつとく奸けん兇けうくちはあやまりて和親わしん
 と欲よくす。誓ちかひのそく申まをす。はくちりて幾人いくにん
 義ぎとあもむ讎あだと信まをす。版ばんとひのまぶ。恒とこと守まも。岳がけ
 忠ちゆう孝かう。天あままはくちり

忠臣傳 盡忠けんちゆう 韓かん国こく 丹城たんじやう 背せいも。但た

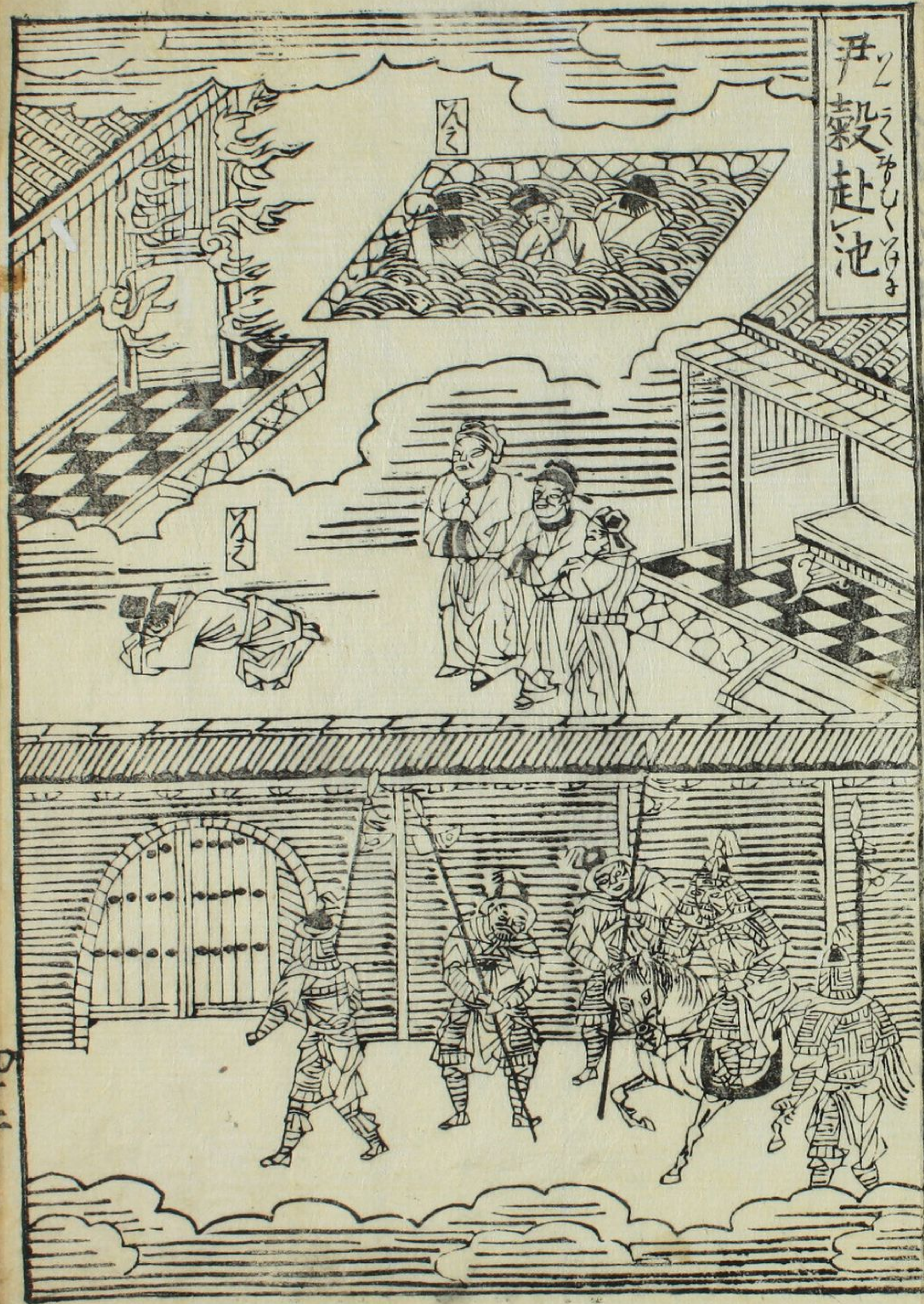
夫こゝろくつて字あざなも明あきらまらばし。軍いくさ兵へいとを
 奉たてまつり。紀律きりつと厳げんらふす。古ふる今いまもなれはふ
 名なひもくする。と成なりえん



高飛退背

忠田中

三



尹穀赴池

又つてくわんじとせうじしてあつての中
 門とありす。まうまう平に厚懸とて
 一尺餘り。是れあつていふ相とて
 櫻どく死守。一家のたゝみ乾坤とて
 守

徳田中

甲一

つゝのく修く回さで廿九日ふより母の方
とらうてま母を成たすしつやもきまされ
人つ又まきまもつこのやまのめをゆきん
やとま福くつそくじつ設入紂王まきん
年まのま母を下とらうあひくらの回らひ
て國入世も成まの母伯夷叔齊は成周の
粟成くつそくしてそ湯少の飢て死をりたは
此にまのや成けつて海とあつ成まきん
すりまのまの成ま書よまのすりまの海と
とらうと張弘範らりる船く遊りまの天
福まのり食とらうく八日母修されま
けり母死す元乃兼相寺羅とまの天福
小まの修くは二まのけりまのまの
修のゆりまのやめると天福まきんて修く
まのまのまのハまの一人ありまのハ天
子まのの口まのまのまの成まのまの
宗廟とわがじりまのあり一日乃命わるとま
まのまの一日乃忠とけりす修下れまのけり
らるまのハけりまのまのまのまのまの
わるとまのまのまのまのまのまのまの

shonin

PLM



天祥不屈

